
ひと狩り行こうぜ！モンハン高校！

烏山

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひと狩り行こうぜ！モンハン高校！

【Nコード】

N5106V

【作者名】

鳥山

【あらすじ】

本州のどこかにある『私立門前半田高校』もんぜんはんた（多分もう正式名称は出てこない）、通称『モンハン高校』に通う生徒、教員、その周囲を舞台として、登場人物はみなモンハンの何等かのモンスターがモデルになっている擬人化さん！主人公不在のドタバタ日常コメディ！ひと読み行こうぜ！？

昼休み（前書き）

今回の主な登場人物！

※生徒名↑モデルとなったモンスター
よみがな

簡単な紹介

・黒目くろめ ラルク↑メラルー

モンハン高校2年G組在籍の地味な生徒。友達が少なく、休み時間は人の会話を盗み聞きして楽しむかなしい男子。脳内の発言量が半端ない。

・轟とどろき 帝我↑ティガレックス

2年G組の男子生徒でモンハン高校一の不良。クラスの問題児の一人。喧嘩っ早く腕っぷしもいいが、女子に弱い。声がやたらでかい。頭はびっくりするほど悪い。

・鳴牙なるが 迅↑ナルガクルガ

2年G組の男子クラス委員。クラス委員だが、ことある毎に帝我と衝突し喧嘩に発展する問題児。実家が剣道の道場で剣道部主将のため帝我と互角に渡り合える。古風なしゃべり方をするが実はキャラを作っているだけ。

・御友おとも 愛瑠↑アイルー

2年G組の女子生徒。クラスの人気者でラルクの幼馴染。若干天然さん。実家は「猫飯亭」という定食屋。

昼休み

> i 2 9 3 5 8 — 3 7 5 7 <

昼休み……オレは寝たふりをして人の会話を聞いている。別に友達がいらないとかそういうわけではない！……ただ、3、4限が体育だったから疲れているだけだ！

ふとオレは前の前の席に集まっている女子の集団に目を向けた。

「今日のテニス暑かったねェ」

「うんうん！こんな日に体育とかホントないわ」

確かに今日は暑かった……35度って今朝天気予報で言ってたな……

「ねえねえ！今日放課後駅前に新しくできたところ行ってみない！？ほら？愛瑠もどう！？」

「ん……やめとく。今日はお店の手伝いしないといけないから、ラル君と帰るう」

「えっ……！！？」

集団の中心の席に座っていて、今オレの名前を出して集団の空気を

一瞬止めたのはオレの幼馴染の『御友 愛瑠』。実家は定食屋でオレの家の隣。同じ方向の生徒がオレしかないらしく、よく一緒に帰ろうといわれるが……

「アンタ：まだあんなのと帰ってるの？」

「やめときなって！『ねくL・●rcㄱenㄱCiel』だよ！？
何されるかわかんないよ！？」

：と言った感じでだいたい周りの女子に反対される。

そういえば紹介が遅れていた。オレの名前は『黒目 ラルク』。：
というか前書き読んだ人は知ってるか：

ちなみに今言われた通り、オレの名前の由来はL・●rcㄱenㄱCielらしい。

当時デビュー数年だったL・●rcㄱenㄱCielの大ファンだった両親が付けた名前だ。ハイドにしようとしたらしいのだが、L・●rcㄱenㄱCiel全体が好きなんだと思い返し、ラルクになったらしい。名前の意味は「L・●rcㄱenㄱCielのように有名で何かで一番になれるように」らしいが、絶対にあと付である。一時期ホントにグレようと考えた。しかし勇気がなくとどまって今に至る。

「ええゝラル君は変なことしないし、根暗じゃないよ？」

さすが我が幼馴染！そのまま押し返すんだ！

「でも、あたしアイツが話してるところ見たことないよ？」

…え…？

「休み時間もずっと机に突っ伏したままだしさあ～…」

…ええ？

「うわっ！突っ伏しながらこっち見てる！！」

…いやっ！ちがっ…これは…

「マジで！？キモッ！」

オイ！！

「ほ、ほら危ない奴だよ…愛瑠、あっち行こ？帰りもあたしたちが送ってくよ？」

あ、愛瑠！弁解をっ！

「う…うん…」

待てー！ちょっと待てー！愛瑠！お前までそんな目をするんじゃない！

っーかあのクソアマ共…いつか地獄へ叩き落としてやる…！！

くそ…オレが何したってんだ…！名前のせいかな！？だとしたら絶対にグレてやる！…グレると言えば…

「何ジロジロ見てんだコラァ！！」

教室の後ろでやたらデカイ声で怒鳴っているのは学校一の不良と言われている『轟 帝我』。厳つい顔つきに180越えの長身で髪は金髪で制服をだらしく着ているその姿はヤンキーの権化と言っても過言ではない！そしてその不良の目の前に立ちめっちゃガン見している男子生徒が一人…

「…轟よ…お主の制服の着こなしはなんだ？ネクタイは緩く、シャツは出ていて、ブレザーのボタンもしていない…お主は失業中のサラリーマンか!？」

不自然に古風なしゃべり方をする彼の名は『鳴牙 迅』。うちのクラスのクラス委員だ。背は轟ほどではないが高く、髪は黒髪の長髪で後ろで一つに結んでいる。サムライアピールだろうか？

「あ”？殺されてエのかテメエはよお？誰が密漁中のサラマンダーだ!?!意味わかんねえよ!?!」

いや、意味わかんねえのはお前だろっ!?!どうしたら『失業中のサラリーマン』が『密漁中のサラマンダー』になるんだよ!?!?てかなんだよ『密漁中のサラマンダー』って!サラマンダー、なんで密漁してんだよ!?!?

「お主バカなのか？バカなのかお主？サラマンダーがなぜ密漁をしておるのだ!?!」

あ、同じこと言った。

「うるせえよ!テメエの声がちいせえんだよ!つーかお前アレだぞ!バカって言った方がバカなんだぞ!?!」

なんだそれっ！？小学生でも最近いわねえぞ！？

「…！！…っかオメエはさっきから何こっち見てんだよ？」

「！！やばい！気づかれた！？ていうか声デカいから誰だって目が行くって！」

「……いや…その…えっと…」

だめだあー！実際に声に出すと全然しゃべれねえ！！

「なんだあ？はっきりしろやコラァ！！」

「ヒィ…！！」

「おい、轟！よさぬか！！その者は関係なからう！」

おおっ！さすがクラス委員！助かるぜ！

「大丈夫か？…その…えーつと…」

オイ…まさか…

「なんだっけ…えつくと、確か名字が偉大な文学者みたいな感じで、下の名前がロックバンドみたいな感じだったと思うのだが…」

マジか！？クラス委員マジなのか！？名前忘れた！？てか、なんだ偉大な文学者って！？……黒目……目……ああ、夏目●石！……っじやなくて！しかも下の名前ロックバンドまで来てんならわかれよ！珍しいぞ！？この名前！！

「…あの…オレの名前は……」

「なんだよ！？オメェクラス委員のくせにコイツの名前も知らないのかよ！？ダセーなオイ！？」

「…クッ……。…そういうお主はどうなんだ…！？」

「あ？オレはこのクラスの番長的な存在だぜ？文学者みたいな名字にロックバンドみたいな名前だろ！？コイツの名前は『尾田 A K B』だ！な？そうだろ！？」

な？…じゃねええええ！！！！何その無理やりな名前！？しかも尾田って…！確かにONE P●ECEは偉大なマンガだがつ…！それにA K Bに至ってはロックバンドじゃねえから…！アイドルだから…！！てか名前がA K Bってどういうことだよ！？

「そんな名前なわけなからう！コヤツの名は『芥川 ミスチル』だ…！」

「なんだそりゃ！？コイツは『鳥山 S K E』だ！」

…なんかもう…死にたくなってきたぞ…？轟さつきと名前変ってるし…。

「ラル君をいじめちゃダメエ！！」

！？愛瑠！戻ってきてくれたのか！？

「ああ？…って御友さんっ！！」

なんだコイツ？急に様子が変わったぞ！？

「すまない御友殿。だが、私はいじめていたわけではないのだ…ただ、この者の名前が思い出せなかったのだ…」

いや、それ十分いじめじゃね！？

「う…うん…オレ…じゃなくて…僕も、コイツ…じゃなくて彼の名前を思い出していたところなんだよ…。…教えてもらえないかい？」

オイ！なんで言い直した！？なんで若干紳士風！？

「もおー！二人ともそれはあんまりだよっ！？この人は私の幼馴染の『黒目 ラルクン』！！今度いじめたりしたら許さないんだから

ね！」

…愛瑠よ…ちょっと待て！今微妙にあだ名になってなかったか！？それともいままでそれを本名だと思ってたのか！？

「オサナ…ナジミ…?! ……ラルクン！オレたち親友になろう！そして御友さんのことを色々教えてくれたまえよ！」

オイ、ヤンキー!?急に態度変えてんじゃねえぞ!?あとそれあだ名!!

「轟！貴様そう言って目黒君をパシる気であろう！安心するがいい目黒君…私がお主をコヤツから守って見せよう！」

オイ、クラス委員!?さっそく名前間違ってるぞ!?逆だ逆!!

「ラル君!やっぱり今日一緒に帰えろ？」

「あ、ああ…！」

「なんだとっ!?オレもっ…じゃなくて僕も一緒に帰るよ!ほ、ホラ、僕とラルクン親友だし！」

調子いいぞコラ!もうお前絶対学校一の不良じゃねえだろっ!?

「…オイお主、目黒君だけでなく、御友殿にも害を及ぼす気か?!…その下校、私も同行しよう！」

だから目黒じゃねえっての！！黒目だっつの！！

「ん〜、じゃ、みんなで帰ろうか♪いいよね？ラル君」

だ〜れがこんなクラスの問題児共と…

「…うん…みんなで帰ろう…」

承諾しちゃったー！！！！オレってやつは…オレってやつあ…

「よっしゃー！！じゃあ5、6限はどーすつか！？サボるか！？」

「だめだよお？授業はうけないとお！」

「そ…そうですよねえ〜♪」

「そうだぞ…ただでさえバカなのに授業すら受けなくては救いようもあるまい…。…いや、バカには授業も理解できぬか？」

「てめえ殺す！マジでぶっ殺す！」

「ダメだよ轟君、暴力は！鳴牙君もバカバカ言ったら可哀想だよ！」

……

……なんだか、賑やかな下校になりそうだな……

昼休み（後書き）

一話でした！なんか突っ込みばっかでした！

次の話だとまた登場人物は変わりますが、彼らはまた登場します！

それではまた！誤字、感想、アドバイスあればよろしく願いします。

進路相談（前書き）

今回の主な登場人物

天妻 あまつま 嵐子 らんこ ↑ アマツマガツチ

・モンハン高校3年D組の担任の女性数学教師で、このクラスが初めての担任。初めて持ったクラスが、最高学年で受験や就職を控えていることから、とても気合が入っているが、問題児の多いクラスのため、生徒に翻弄されている。感情が顔に出やすい。

水生 みなお ロア ↑ ロアルドロス

・3年D組の男子生徒で水泳部のエース。とても単純で元気いっぱい。泳ぐことが大好きで、夏休みにインターハイを控えている。進路アンケートは未定で提出。

進路相談

「ううゝ…水生君遅いなあゝ」

私の名前は「天妻 嵐子」。このモンハン高校の先生になって2年目の新米教師です！今年、初めてクラス担任がもてました！

しかし、初めて持った学年が最終学年…なかなかプレッシャーを感じます…。みんな受験やら就活やら大変そうですので、先生である私が力になってあげないといけないのに、私みたいな新人では生徒も不安なんじゃないかな…？

ダメダメッ！私がこんな風じゃそれこそ生徒が不安がっちゃうよ！そう！いつも通り、私できることをしよう！

そう思って、この前『進路アンケート』というモノをみんなに書いてもらって、みんなの進路を聞いてみたら、ほとんどの人が自分の道を決めていて、なんだが安心しちゃいました♪

…でも、未定の人が3人…そして…『雷撃ノ餓狼』？なんて読む

の？らいげきのがろう？…と意味の分からないことを書いた人が一人…

そこで彼らの進路について本日、二者面談を四人に対して行うことにしました。

まず最初に来るはずなのが、未定で提出した水泳部の「水生 ロア」君！

指定した時間過ぎてるのに…おそいなあ……

「しっつれいしっまゝす！！！」

「もおゝ水生君遅いよゝ！早く席に座……」

「ゴメンなあゝ先生！ちよつとひと泳ぎしてきちゃった！…つてアレ？先生どうしたの？」

教室に入ってくる彼の姿を見て私は口をポカンとあけたままだった。

頭にかけたゴーグル。裸の上半身。ピッチリとした競泳水着。彼が

歩くたびに水浸しになる床!!

彼は普通に部活の格好そのものだった! しかも体を拭いた様子は無し!

「ちょっと! な、なんでそんな格好なのっ! ?」

「え? だから言ったジャン! ひと泳ぎしてきたって!」

「だ、だからどうして着替えてこないの? !」

「いや、だって気付いたら面談の時間だったし、この面談の後も部活あるしい~!」

「だからってえ……」

……いやいや、今はそんなことより彼の進路について話さない! ただでさえ時間がないし、次の人を待たせることになっちゃう!!

「まあいいわ。…それで水生君は何かやりたいことはないの？」

「んゝ…やっぱり泳ぐことかな!？」

やっぱりそうだね! 水生君は! …確か夏休みにはインターハイもあるし、このままいけば…

「じゃあ、水泳選手になるのかな? 先生絶対なれると思うよ!？」

「水泳選手ね…んゝそれはないかな？」

「えっどうして!？」

「先生…オレはもっと自由に泳ぎたいんだよ! ぶっちゃけ今の部活にも納得はいつてないかな？」

ええー!？

「そうだな…強いて言うなら…魚になりたいな! 速いの」

えっ!？何コレ!？進路相談だね!？進路ってそういう…

「水生君？人間は魚にはなれないと思うなあ…」

「そっか……。……あっ！そうだ！先生オレ将来決めたよ！！」

「えっ！？何になりたいの！？」

「科学者！！」

どどん！！…唐突だよ…唐突過ぎるよっ！

なんで科学者！？泳ぐことあるのっ！？

「オレ、科学者になって人間が魚になれる薬を作る！そしてオレは太平洋を魚になって横断するっ！！」

ええー！？もう何が何やらだよおー！！そんなの明らかなマッドサイエンスじゃない！

「でも、その前にインターハイだっ！そこでとりあえず勝ってから、科学の勉強を始めるよ！」

「じゃ、じゃあ理系の大学に進学がするの？」

「…いや、人間を魚にする薬について研究してる大学はないでしょ？自分で何とかするよ！」

確かにその通りだけれどもっ！！！！

「よぉーし将来の夢も決まったし、まずはインターハイ優勝のために部活に専念するかな？先生！ありがとうな！！」

「あっ！水生君！ちょっと待って！廊下は走らないでえー！……………行っちゃった！」

……「ありがとう」って…私何かしたっけ？…………とりあえず、彼にはまた話を聞かないといけないみたいね……

…ああもう…床びちゃびちゃだよお……

……水生　ロア、進路未だ未定……つと……。

進路相談（後書き）

このシリーズはどんどん書いていこうと思います。

それではっ！

メール（前書き）

今回の主な登場人物

風呂須^{ぶろす} 双角^{そうかく}↑ディアブロス

・2年G組の男子生徒で、寺の息子。兄がいて、寺は兄が継ぐものなので彼には特に影響はない（髪も長め）。二本のアホ毛がある。とてもせっかち。

鎧倉^{よろいぐら} 敏八^{びんぱち}↑グラビモス

・2年G組の男子生徒。双角の親友。物事を浅く考えすぎて、真に受けやすい。髪型はボウズ。双角とは何故か気が合う。

KIRIN^{きりん}↑キリン

・今話題の女性アイドル歌手。本名は「青木^{あおき} 凛^{りん}」。

メール

オレは風呂須 双角！！風呂須寺の次男だ！…だが、今はそんなことはどうでもいい！！ついに…ついに明日、KIRINのライブに行けるのだ！

何故かチケット二枚手に入っし、一人で行くのもなんだかなぁ〜といった感じなので、鎧倉も誘ったら「もちろん行きたい！」とのことなので連れて行ってやることにした。

「次は天気予報です！」

ん？天気予報か。一応明日はドームで行うライブだが、雨だと行くまで面倒だしな…見ておこう！

「明日から天気は下り坂です！傘を持ってお出かけください」

マジかよ…。…とりあえず鎧倉にも伝えておくか！ケータイどこおいたっけ？…んゝ後で探すとして、今はパソコンでいいや！

明日、俺らあれ行くじゃん？でもなんか天気荒れるらしいよ？…と…送信！

（実際のメール）『明日、俺らあれ行くじゃん？でもなんか天気アレるらしいよ』

（鎧倉家）

あつ！風呂須からメール来た！明日のことかな？つかなんでパソコンの方のアドレスからなんだ？

……「アレる」ってなんだ？どういうことなんだ？アレってなんだ？
？天気がアレるとどうなるんだ？

『アレって何？』

（風呂須寺）

ん？返信はやいな……はあ？コイツ、バカか？あれってライブに決まってるんだろ！？

まさかわすれてたのかあ？？

バカかお前！？バカなのかお前！？あれってライブに決まってるじゃん！つと…送信！

『バカかお前！？バカなのかお前！？あれって雷舞に決まってるじゃん！』

く 鎧倉家く

あゝ来た来た……！？雷舞！？なんだそれ！？何？雷が舞うの？危なくね！？というかなんでオレはすごくバカ扱いされてんだ？

『なんでそんなにバカ扱いなんだよ！？つか、危なそうじゃん…明日はなさそうだな』

く 風呂須寺く

ん？返信来た……いや、バカでしょ！？普通にバカ扱いされるでしょ？明日のイベントのこと言ってるのに…。…つか、中止はないだろう！？たかだか雨だよ！？ドームだから大丈夫だろう！

『結構前から言ってお前楽しみにしてたじゃん！つか、大丈夫だから！そのくらいで中止にならないから！それに明日ドームだからね！？』

く 鎧倉家く

何々？……言ってねえし、楽しみでもねえよ！雷に打たれたくねえよ！！しかも、そのくらいって…ドームにつく前に死ぬからね？

『オレやっぱ死にたくないから明日はパスするよ…』

（風呂須寺）

はあー！？なんでそうなる！？死なないでしょ？どんだけ水に弱いんだよアイツ！？…さっきのバカで傷ついたのかな？とにかくテンション高めで行くか…

『オイオイ何言ってるんだよ！？一緒にKIRINの曲聴きながらシビレよーぜ！？』

（鎧倉家）

ザケンな！！痺れるですまねえよ！？…もう明日は一日引きこもっとくか…

『黒コゲになるわ！…オレ絶対明日外でねえから！！』

（風呂須寺）

どんだけコイツKIRINの曲すきなんだよ！そんでなんで出てこないんだよ？…荒れるってやつを台風かなんかと勘違いしてんのか？

『ちよっ…お前KIRIN好き過ぎw荒れるっていつてもアレだよ？ちよっと雨降るだけだよ？』

（鎧倉家）

…なんでそうなるんだ？確かにKIRIN好きだけど…。…荒れる？…天気の話か？…荒れる…荒れ…アレ…アレ…！？アレル…！…！
そういうことか！なるほど勘違いしてたよ！

『なんだ勘違いしてたよ！じゃあ傘が必要だな！つか、この前借った傘返したいから、明日の朝その傘持ってお前んち行くよ！』

（風呂須寺）

…どんな勘違いしてたんだ？…まあいいや！傘わざわざ持ってきてくれるんか！助かるな！

どんな勘違いしてたんだよwあ、でも助かるわ！じゃあ明日サンキユウな！っと送信！

『…どんな勘違いしてたんだ4話、でも助かるわ！じゃあ明日産休な！』

（ 鎧倉家 ）

意味わかんねえよ！なんだよ4話って！？なんで明日産休なんだよ！？

このようなやり取りが深夜まで続き、結局寝坊して二人ともライブに間に合わなかったのは言うまでもない。

メール（後書き）

打ち間違えネタ難しいです…

生徒会（前書き）

今回の主な登場人物

大^{だい} 慰安^{いあん}↑イヤンクック

・モンハン高校の生徒会長を務める男子生徒。3年。通称「大会長」。
。グルグルの眼鏡をかけていてとても真面目で一般生徒には人気だが、生徒会役員からの人望は薄い。いじられキャラ。

樹々^{きぎ} 怪^{かい}↑ギギネブラ

・モンハン高校の生徒会副会長の男子。3年。会長希望だったが、投票で大に負けて副会長になったため大を憎んでいる。毒舌。

水生^{みなお} 紫^{むらさき}↑ロアルドロス亜種

・モンハン高校生徒会会計。2年。水生 ロアの妹。兄とは違い、計算高い性格。とくに大に恨みがあるわけではないが、副会長の樹々と一緒に大をいじっている。ややブラコン気味。毒舌。

毒鳥^{どくとり} 利与^{りよ}↑ゲリヨス

・モンハン高校生徒会書記の女子。2年。紫とは仲がいい。演劇部にも所属していて死んだフリがリアルにうまい。また、ネチネチとした小言が多い。毒舌。

金子先生^{かねこ}↑ラージャン

・体育教師。モンハン高校一厳しいらしい。スキンヘッドで普段も十分貫禄があるが、本気で怒ると金色の髪の毛が生えるとのうわさ

W

生徒会

モンハン高校生生徒会……彼らの会議開始まで10分を切った。

そして、生徒会長の大 慰安……通称大会長が生徒会室に入ろうとしている。

「みんなもう来てますかね?……失礼しまーす!!」

生徒会室にはまだ誰もいなかった。

正確には生きている人は誰もいなかった。

「!!!!!! 毒鳥さんっ!!!!!!」

会議用の机の横で女子生徒が口から血を流し横たわっている……生徒会書記の毒鳥 利与である。

「毒鳥さんっ!! しっかりするんだ!! いったい何があったんだ! ?」

近づいて体をゆするが彼女は目を瞑ったままだ。

「クソう!! いったい誰がこんなことを……」

大は彼女の横に刃先に血の付いたナイフを見つけた。そしてそれを拾ってしまった。

「これが凶器か……犯人はいつたい……」

ガラガラあゝ

「失礼しま………って、きゃー………!!!」

生徒会室の扉が開き女子生徒と男子生徒が一人ずつ入ってきた。女子生徒は悲鳴を上げて大を指さし、男子生徒は軽蔑するような目つきをしていた。

副会長の樹々 怪と会計の水生 紫である。

「だ、大会長が……り、利与ちゃんを……こ、殺した……」

「いや、これはちがつ……」

「何が違うってんだ殺人鬼!!」

「だから、僕じゃなくて……」

「あっ！金子先生！！大会長が……」

「いや、ちょ、待って！！」

「どうした！？樹々！？水生！？……ってなんじゃこりゃあああああ
あ！！！？？」

「いや、だから僕は犯人じゃ……」

「そういうのは凶器を隠してからいうんだな……。…大、ちょっと来てもらうぞ？」

「そ…そんなあ……」

「警察や病院には僕たちが連絡を入れておきます!!」

「まかせたっ!……オラ!行くぞ!」

タッタッタ……

大は金子先生にどこかの教室に連れて行かれて見えなくなった。

「……………。…よし、行ったか……………。毒鳥！もういいぞ！」

「……………。え？あ、ハイ！」

倒れていた毒鳥は普通に起き上がり、どこも痛そうではない。

「いやあ、毎回思うけど、利与ちゃんの死んだフリ、リアルだよねえ……………。ナイス演技！！」

「ふう〜……で、大会長誰に連れて行かれたの？」

「体育の金子だよW」

「うわっW可哀想ー!!」

「まあ、いいだろう？ドッキリって明かせば……。…そいじゃあ、みなさん…帰りますか？」

「「はぁーい!!」」

三人は床に残った血糊をふき取ることもなく生徒会室を後にした。

3時間後

「ふう、やっと疑いが晴れて解放されたよ……それにしてもいった
い誰が……。でも救急車やパトカーが来た音はしなかったよな……
まだ、現場はそのままか？」

大は生徒会室の扉を開いた。

そこには血の跡があるだけで本当に誰もいなかった。しかし、血文字でこう書いてあった。

ド
ッ
キ
リ
大
成
功
♪

大はその場に崩れ落ちた。

生徒会（後書き）

こんな生徒会あったら楽しげですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5106v/>

ひと狩り行こうぜ！モンハン高校！

2011年10月9日07時35分発行